

緑化だより

No.194 令和5年6月号



ウツギ

- 季節の花(ヒルガオ(かおばな))
- 水生昆虫の話(ヒメフタオカゲロウ)
- 小さな世界こけ(ジャゴケの仲間)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ヒルガオ(かおばな)

「高円(たかまど)の 野辺の容花(かおばな)面影に

見えつつ妹は 忘れかねつも」

大伴家持 万葉集 巻8-1630

これを訳しますと

高円山(たかまどやま)の野のあたりに美しく咲いている、容花(かおばな)のようなあなたの面影がちらついて、忘れようとしても忘れられません。

大伴家持(おおとものやかもち)が聖武天皇(しょうむてんのう)の行幸にお供をして、伊勢(三重県)から山城(京都の南部)へ行く道中、高円山(奈良市)の麓に住んでいる、愛する妻である、坂上大嬢(さかのうえのおおとめ)に贈った歌です。容花(かおばな)とは、ヒルガオのことです。

ヒルガオはヒルガオ科ヒルガオ属のつる性植物です。

北海道から九州まで全国に自生し、国外では朝鮮半島、中国大陸に分布しています。日当たりの良い野原や道ばた、空き地、河川敷、土手などに普通に見られ、つるを伸ばして他のものに巻き付いて生えています。

葉は矢じり型で後ろに張り出します。花は6~8月にアサガオに似た5~6cmぐらいの淡い桃色の漏斗型の花で、朝咲いて夕方まで咲く1日花です。遣唐使が持ち帰ったアサガオ(朝顔)に対する呼び名としてヒルガオ(昼顔)と呼ばれました。耕作地に入って根が残ると、また発芽する厄介な雑草となります。

類似種のコヒルガオ(小昼顔)はヒルガオより小型で花が小さく、花柄には翼があり、葉の形が横に張り出した三角状のほこ形で2裂しています。

ヒルガオ、コヒルガオは、葉や茎をゆがいて、あえ物おひたしなど山菜として食べられます。また全草が薬用植物であり民間薬としても利用されています。

海岸の砂浜に群生しているのは、ハマヒルガオ(浜昼顔)です。花の色も形もヒルガオに似ていますが、ハマヒルガオの葉は丸くてハート形で、厚くて光沢があります。茎は砂の中を這って広がる匍匐性(ほふくせい)です。(上村)



ヒルガオ



コヒルガオ



ハマヒルガオ

水生昆虫の話

ヒメフタオカゲロウ

梅雨の時期、雨が止むと小さな虫たちが飛び回ります。川のほとりや夜は街灯の灯りや家の窓明かりに小さなカゲロウたちも飛んでくる時期になりました。

そんな小さなカゲロウの仲間を紹介します。

こちらの写真は、ヒメフタオカゲロウです。

カゲロウ目ヒメフタオカゲロウ科ヒメフタオカゲロウ属で、日本に生息するヒメフタオカゲロウ属は7種以上いるとされていますが、未だ多くの未記載種が生息しているそうなので、まだまだこれから研究が進むと種類が増えていきそうな種類です。

ヒメフタオカゲロウ属の幼虫は、体長約10~15mm。やや細長くスマートな流線型で、頭部には1対の大きな複眼と3個の単眼があります。腹部の側方には全部で7対の葉状のエラがあり、腹部背面下方には黄色の帯があります。尾は3本で体長より短く、中央部の同じ位置に黒いソンドがあるのが特徴的でブラシのような細かい毛がフサフサと生えています。

幼虫の主な生息場所は、上・中流域の緑化センターの小川のような山地溪流から平地溪流で、流れの緩やかな淵など落葉が沈んでいるような場所を好み、集団で見つかることもあります。落ち葉や生物の死骸が分解して細かくなったものや、水中に生える藻を削り取って食べています。

また、チラカゲロウ属と同じで泳ぐのがとても上手なので、とても元気にチョロチョロと動きまわります。網に入ると頭をピクピク動かすので、一瞬小さな魚が採れたのかと勘違いしてしまいます。

4月中旬ごろから6月にかけて、陽が傾きはじめた午後の遅い時間から岸辺の石や流木の上などに登って陸上で羽化して亜成虫になります。その後脱皮して成虫になりますが、成虫は黄色っぽい鮮やかな色になり、腹部背面は茶色と黄色のストライプ模様になります。

小さな黄色っぽいカゲロウを見つけたら、本種かもしれません。虫メガネやルーペで、その小さな美しい模様を観察してみたいかがでしょう。(西村)



ヒメフタオカゲロウの幼虫

小さな世界 こけ

ジャゴケの仲間

山地の、水のしみ出る斜面や湿気の多い土壌などで見られるジャゴケ。葉状体の葉の表面には六角形の区画があり、区画の中央には灰白色をした点(気孔)が見られます。この六角形の区画模様をへびのうろこに見立てたのが名前の由来です。

これまでジャゴケは1種類として扱われていましたが、近年日本産のジャゴケは、オオジャゴケ、ウラベニジャゴケ、タカオジャゴケ、マツタケジャゴケの4種類あることが判明しました。

今回はその中でも、緑化センターでも見ることができる2種類を取り上げてみます。

オオジャゴケは最も普通に見ることができ、水気の多い場所を好みます。

葉を裏返して腹面を見ると、緑色をしています。

ウラベニジャゴケは山路沿いの土を好み、葉の裏(腹面)は茶褐色をしています。

ジャゴケをみつけたら、葉をひっくり返してみてください。

同属のヒメジャゴケも緑化センターにありますが、より小型で、人為的な環境を好みます。(山根)



ジャゴケ



オオジャゴケの腹面



ウラベニジャゴケの腹面

研修会のご案内

- | | |
|---|--|
| <p>○6月 4日(日) 『森の体験』
自然の素材で自由に工作
※ 自由参加(随時受付)、材料費 1 作品 100 円、荒天中止</p> | <p>10:00～15:00 レストハウス前
講師:緑化センターボランティア
ふれあい湧</p> |
| <p>○6月 4日(日) 『ネイチャーゲーム』
自然の中で遊びを体験します
※ 自由参加(随時受付)、無料、荒天中止</p> | <p>10:00～15:00 レストハウス前
講師:広島市
シェアリングネイチャーの会</p> |
| <p>○6月 7日(水) 『常緑樹の剪定講座』
～春の手入れを学ぼう～
基本を学び、屋外で実技指導を行います
※要予約(先着 15 名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師:NPO 法人 樹木医ひろしま
工藤 徹</p> |
| <p>○6月 11日(日) 『6月の自然探勝』
～初夏の自然を楽しもう～
※自由参加、無料</p> | <p>10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:環境カウンセラー
自然観察指導員
和田 秀次</p> |
| <p>○6月 23日(金) 『落葉広葉樹の見分け方』
実物の枝や葉を用いて見分け方を学びます
※自由参加、無料、ルーペ持参</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師:森林植物研究家
埴田 宏</p> |
| <p>○6月 25日(日) 『梅雨のきのこ入門観察会』
園内を歩きながら生えているキノコの説明を聞きます
※要予約(受付終了)、無料</p> | <p>10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:きのこアドバイザー
川上 嘉章</p> |

お知らせ・ご案内 ☆

第21回ひろしま「山の日」県民の集い (レストハウス前広場)
6月4日(日) 10:00～15:00
山の手入れ(除伐活動、要予約)、ネイチャーゲーム、森の体験



◎ 展示会

場所:レストハウス

(ボード展示)

第13回ひろしま遊学の森

こども写生大会作品展

6月15日(木)～7月5日(水)

(ガラスケース展示)

陶友会「陶芸作品」展

～6月27日(火)

場所:学習展示館(ボード展示)

季節の花 写真展

～6月30日(木)



第11回ひろしま遊学の森

「こども写生大会」作品展より